

真空採血管を用いた採血手順

1. 真空採血管による採血時の感染防止の基本

- ・真空採血時の採血管内の内容物逆流防止と、ホルダーの汚染からの交差感染リスクを低減するため以下の基本を遵守する。
 - 真空採血管はすべて滅菌製品を用いる
 - 逆流発生を防止する手技を徹底する
 - 採血管ホルダーは一患者ごと使い捨てる

2. 真空採血管による採血手順

(1) 採血管を準備する

室内温度になった滅菌真空採血管を準備する。
未使用の清潔な採血ホルダーを準備する。

(2) 患者に楽な体位をとらせる

座位の場合、患者の腕をやや下向きにする。

(3) 駆血帯をする。

(4) 皮膚の消毒

(消毒方法は、病院感染対策マニュアル「カテーテル関連血流感染対策」の項を参照)

(5) 採血針刺入

採血管をホルダーにまっすぐ挿入する。
採血の血流が停止したら、直ちに採血管をホルダーから抜く。

(6) 駆血帯をはずす

採血管をホルダーから抜いた後、駆血帯をはずす。
採血管をつけたまま駆血帯をはずすと、採血管内の血液や添加物が血管内に入る危険性がある。

(7) 刺入部にアルコール綿を当てながら針を抜き 圧迫止血する。

< 採血のポイント >



患者の腕をやや下向きにする



血流が停止したら、採血管をホルダーから抜く



採血管をホルダーから抜いた後、駆血帯をはずす

3. 採血終了後のホルダー処理

- ・ 採血ホルダーは一患者ごと使い捨てる。

1) 外来での運用

- ・ 採血針とホルダーが一体化した器具を使用する。
- ・ 採血後、針とホルダーが一体のまま感染性(白)容器に廃棄する。
- ・ 決して針とホルダーを分解しない。



針と一体のまま、できるだけ感染性廃棄容器(白)へ廃棄する。
携帯用容器のコストが高いため

2) 病棟の運用

- ・ 採血針:採血後、ワンタッチでホルダーから採血針をはずし、携帯用廃棄容器に直ちに廃棄する。
- ・ ホルダー:感染性廃棄容器(黄色袋)に廃棄する。



プッシュして針のみ携帯用廃棄容器へ廃棄する。
ホルダーは感染性(黄色袋)に廃棄する。